

関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成20年度 技術情報第14号（ミナミキイロアザミウマに対する薬剤効果試験）について（送付）

県内の一部のピーマン産地で、2004年頃からミナミキイロアザミウマによる被害が目立つようになり、これまで有効とされていた薬剤による防除効果の低下が懸念されてきました。今回、南さつま市および東串良町で採集したミナミキイロアザミウマを用いて薬剤感受性検定を行い、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考にしてください。

.....

平成20年度 技術情報第14号

- 1 対象作物 ピーマン
- 2 対象病害虫 ミナミキイロアザミウマ（雌成虫）
- 3 供試虫および検定方法

採集場所	採集作物	採集年月日	検定年月日
南さつま市	ピーマン	2008/5/17	2008/8/20～23
東串良町	ピーマン	2008/6/2	2008/7/9～12

各市町のそれぞれ1ほ場ずつから採集し、25℃、14L10Dの恒温室内で累代飼育した雌成虫。検定方法は、ピーマン葉片を入れた小型容器(10mlのスチロール瓶)を所定濃度薬液に浸漬、風乾後、供試虫を入れて25℃の恒温室に置き、処理24、48、72時間後に生死を調査した。なお、苦悶虫は死亡虫として取り扱った。

- 4 供試薬剤（計18剤）

有機リン剤	2剤	ネオニコチノイド剤	7剤
混合剤	1剤	その他新系統薬剤	6剤
合成ピレスロイド剤	2剤		

5 検定結果の概要

(1) 南さつま市（第1表参照）

スピノエース顆粒水和剤の72時間後の補正死亡率は100%で高い殺虫効果を示し、アファーム乳剤やダントツ水溶剤も90%以上と感受性が高かった。スプラサイド水和剤、マラバッサ乳剤、アルバリン/スタークル顆粒水和剤、ベストガード水溶剤およびプレオフロアブルは80～90%で、防除効果は期待できると考えられる。

(2) 東串良町（第2表参照）

アファーム乳剤の72時間後の補正死亡率は100%で高い殺虫効果を示し、プレオフロアブルも概ね90%と感受性が高かった。ベストガード水溶剤、ダントツ水溶剤およびコテツフロアブルの補正死亡率は70~80%とやや低いが、ある程度の防除効果は期待できると考えられる。東串良町採集虫は、志布志市採集虫（平成18年度技術情報第12号）と同様に薬剤感受性の低下が認められる。

6 検定結果の利用上の留意点及び対策

- (1) 検定結果は、南さつま市および東串良町のいずれも1ほ場のみで、地域やほ場によっては薬剤感受性の異なることが予想される。なお、幼虫に対する検定は実施していない。
- (2) ハウス開口部（サイド等）から侵入することが多いので、目合い1mm未満の防虫網を張る。本虫の発生動向を把握するためには出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。
- (3) 本虫は花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。また、多発条件下では防除効果が劣るので、低密度の時期から定期的な防除を行う。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- (5) 農薬（薬剤）の使用に当たっては、総使用回数等の安全使用基準を厳守する。

第1表 ミナミキイロアザミウマ雌成虫に対する各種薬剤の殺虫効果
(南さつま市, 2008年5月17日採集)

系統分類	供試薬剤	希釈倍数	供試虫数 (頭)	補正死亡率 (%)		
				24時間後	48時間後	72時間後
有機リン剤	DDVP乳剤	1,000	31	71.0	72.7	72.7
	スプラサイド水和剤	1,000	34	73.5	84.4	84.4
有機リン+ カーバメイト剤	マラバッサ乳剤	1,500	35	74.3	87.9	87.9
合成ピレスロイ ド剤	アーデント水和剤	1,000	33	0	0	6.9
	アディオン乳剤	2,000	38	15.8	16.4	49.8
ネオニコチノイド	アクタラ顆粒水和剤	3,000	36	0.0	23.5	52.9
	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000	34	20.6	34.6	47.0
	アルバリン/スタークル 顆粒水和剤	2,000	35	62.9	69.7	84.9
	バリアード顆粒水和剤	4,000	35	22.9	63.7	75.8
	モスピラン水溶剤	4,000	37	24.3	59.9	74.2
	ベストガード水溶剤	1,000	37	83.8	85.7	88.5
	ダントツ水溶剤	2,000	37	45.9	85.7	94.3
	アファーム乳剤	2,000	39	84.6	86.4	97.3
その他新系統薬剤	コテツフロアブル	2,000	37	21.6	28.4	28.4
	スピノエース顆粒水和剤	5,000	40	100	100	100
	トルネードフロアブル	2,000	32	0	7.3	13.9
	チェス水和剤	3,000	32	3.1	10.6	20.6
	プレオフロアブル	1,000	38	47.4	77.7	86.1

※ 展着剤としてベタリン-A (5,000倍) を加用。

第2表 ミナミキイロアザミウマ雌成虫に対する各種薬剤の殺虫効果
(東串良町, 2008年6月2日採集)

系統分類	供試薬剤	希釈倍数	供試虫数 (頭)	補正死亡率 (%)		
				24時間後	48時間後	72時間後
有機リン剤	DDVP乳剤	1,000	30	0.0	11.7	18.7
	スプラサイド水和剤	1,000	27	9.7	13.6	13.6
有機リン+ カーバメイト剤	マラバッサ乳剤	1,500	29	34.1	41.5	48.8
合成ピレスロイ ド剤	アーデント水和剤	1,000	27	9.7	21.4	21.4
	アディオン乳剤	2,000	29	4.9	8.6	8.6
ネオニコチノイド	アクタラ顆粒水和剤	3,000	28	16.6	16.6	16.6
	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000	27	5.7	21.4	37.1
	アルバリン/スタークル 顆粒水和剤	2,000	27	9.7	37.1	60.8
	バリアード顆粒水和剤	4,000	28	12.9	20.5	35.6
	モスピラン水溶剤	4,000	34	22.1	22.1	25.1
	ベストガード水溶剤	1,000	32	56.9	60.2	76.8
	ダントツ水溶剤	2,000	29	67.1	67.1	70.7
その他新系統薬剤	アフアーム乳剤	2,000	31	100	100	100
	コテツフロアブル	2,000	32	53.7	56.9	70.2
	スピノエース顆粒水和剤	5,000	34	28.3	31.4	31.4
	トルネードフロアブル	2,000	39	7.5	12.9	15.7
	チェス水和剤	3,000	35	0.0	0.0	0.0
	プレオフロアブル	1,000	39	72.9	89.1	89.1

※ 展着剤としてベタリン-A (5,000倍) を加用。

<参考> 志布志市で採集したミナミキイロアザミウマ雌成虫に対する各種薬剤の殺虫効果
(平成18年度技術情報第12号)

系統分類	供試薬剤	希釈倍数	供試虫数 (頭)	補正死亡率 (%)		
				24時間後	48時間後	72時間後
有機リン剤	DDVP乳剤	1,000	30	0	0	0
	スプラサイド水和剤	1,000	31	12.9	25.8	25.8
有機リン+ カーバメイト剤	マラバッサ乳剤	1,500	29	48.3	51.7	51.7
合成ピレスロイ ド剤	アーデント水和剤	1,000	30	0	0	3.3
	アディオン乳剤	2,000	28	0	14.3	14.3
ネオニコチノイド	アクタラ顆粒水和剤	3,000	31	16.1	19.4	22.6
	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000	31	22.6	32.3	35.5
	アルバリン/スタークル 顆粒水和剤	2,000	31	45.2	54.8	71.0
	バリアード顆粒水和剤	4,000	31	32.3	35.5	38.7
	モスピラン水溶剤	4,000	30	30.0	33.3	33.3
	ベストガード水溶剤	1,000	33	54.5	75.8	78.8
	ダントツ水溶剤	—	—	—	—	—
	アファーム乳剤	2,000	31	83.3	83.3	96.7
その他新系統薬剤	コテツフロアブル	2,000	32	6.7	20.0	20.0
	スピノエース顆粒水和剤	5,000	34	87.1	90.3	93.5
	トルネードフロアブル	2,000	39	3.4	3.4	24.1
	チェス水和剤	3,000	35	0	0	0
	プレオフロアブル	1,000	39	0	3.8	7.7

※ 展着剤としてベタリン-A (5,000倍) を加用。